

放射能から子ども達を救おう！

小諸母子ホームステイプログラム

井上儀一 & 井上ラウラ（長野県小諸在住）

小さな子に聞かれました。

「ここでは、お花にさわってもいいの？」

その時思いました。私にできることは何だろう…



この活動の趣旨

- 放射能汚染地域の子ども達を放射能から救うこと が目的です。
- まず10年間は活動を続けることが目標です。
放射能の影響は長く続き、子ども達に強く表れるからです。
- 子ども達を放射能から救うこととは
“放射能の累積被曝量を少しでも減らしてあげること”です。
- そのためには
 - ① できるだけ長く 汚染地域から離れる (外部被曝)
 - ② できるだけ汚染の少ない食べ物を食べる (内部被曝)
- ご家族が日頃の生活の中で被曝量を少しでも減らしてあげることがとても大切です。皆が子ども達を放射能から守るボランティアです。

今日までの活動記録

- 2011/ 3月: 本プログラム活動開始。
小諸有志の方々から、ホームステイ家屋提供を受ける。
- 7,8月: 夏休みにリスク地域から母子ホームステイ家族
22家族(子ども44人)受入れ(7組の御家族が移住された)。
- 10月: 内部被曝管理の取り組み開始。
リスク地域のご家庭に小諸のお米の宅配サービス試行。
- 12月: 移住ご家族の転居支援。長野県借上げ住宅制度活用。
- 2012/ 2月: ふくしま教会復興支援ネットワークと連携スタート。
- 3月: 移住されたお母さん達の交流会 スマイルミーティング発足。
- 4月: 子ども達の健康診断サポート。子ども基金提起、募集開始。
- 6月: リスク地域に向け小諸野菜宅配開始(毎週、15家族)
- 春・夏休み: ホームステイ継続:
春休み 6家族(子ども17人)、夏休み 10家族(子ども25人)

夏休み・春休み母子ホームステイ風景

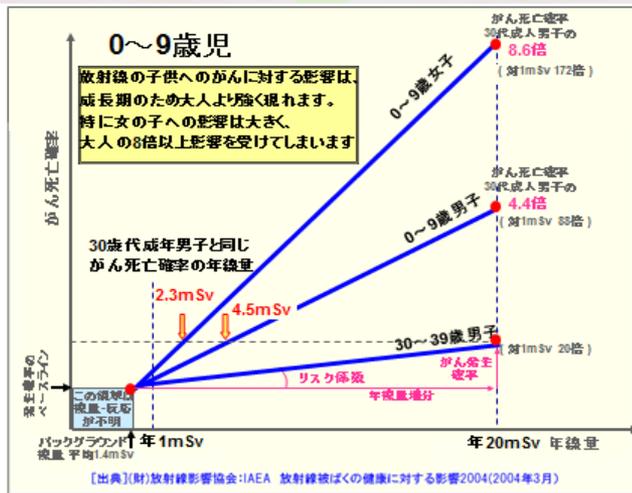


- 子ども達は伸び伸びと、お母さん達もストレスから息抜き

ホームステイご家族との勉強会

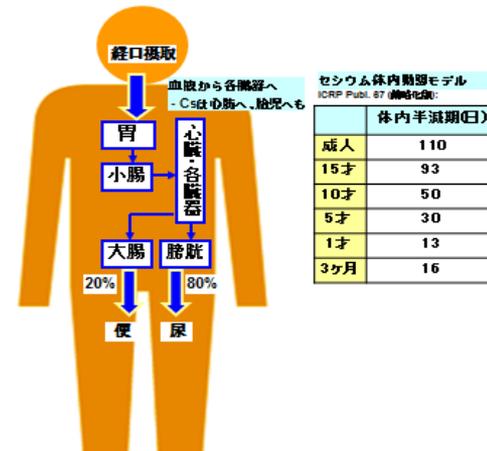


飛び入り講師君です



確率的影響: 年間被曝量と被曝年齢によるがん死亡リスクの関係 21

体内蓄積と体内半減期: 取り込まれたセシウム量が半分になる期間



- 子ども達への被曝リスクを理解するため、10回以上実施しました。

福島との連携・コミュニケーション



いわき市での懇談会



三春地区での懇親会



ふくしま教会復興支援ネットワーク総会



青葉学園(孤児院)との野菜宅配検討

- 子ども達をどうしたら放射能から守れるかを一緒に考えています。

移住されたお母さん達の交流会 (スマイルミーティング)



- 移住されたお母さん達が孤立しないように....

小諸野菜宅配サービス(毎週)



小諸の直売所の協力を得ながら

直売所の規模が小さいので宅配後は空っぽ



有機農家さんも快く協力してくれます

- 現状 リスク地域の15家族への供給で手一杯です。少しでも多くの子ども達の内部被曝を減らすため、供給パイプを広げたい。

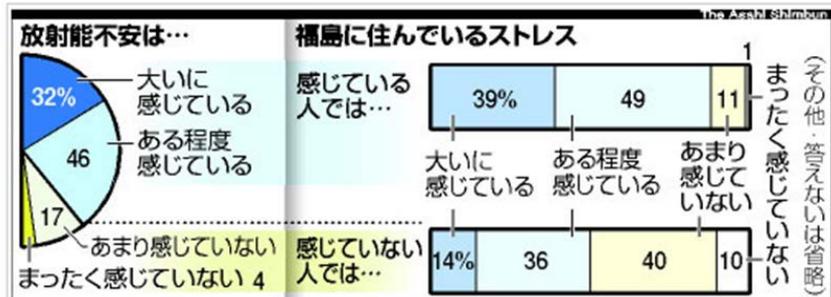
チャレンジ

- 放射能の影響は目に見えないので、人により危機の捉え方が違います。特に内部被曝の影響は見えにくい。
- 「復興」という名の元で、放射能への心配が話しづらい状況が作られつつあります。
- しかし、一度放出された放射能は、長期間無くなりません。
- 80%の福島県の住民は放射能への不安を抱えているというデータがあります。
- 「放射能の健康への影響がまだ見えない」状態です。(潜伏期間) リスクが無いという保障ではありません。
- 原点に戻って、少しでも子ども達の放射能被曝を減らすために、今出来ることが何かをご家族と一緒に考え、継続して実行してあげることが大切です。

福島状況 再認識

「福島在住はストレス」8割 福島、共同世論調査

朝日 2012年3月6日



放射能への不安を感じている人: 78%
 その中でストレスを感じている人: 88%
 県外や放射能の少ない地域へ移住したい
 全体では32%
 不安を大きく感じている人では 50%



日経 2012年9月9日

[復興特集の記事から]
 避難者現在尚 34万人というなかで、福島県郡山市に
 昨年末オープンした東北最大規模の屋内遊び場「郡山
 市元気な遊びのひろば」には週末となると親子連れで
 にぎわい6ヶ月から12才の子供や保護者が対象で、
 これまでに20万人超が入館。
 子供たちの運動不足・肥満が深刻化している現状。

今出来るサポートとは

- 日常生活の中で、“ご家族が無理なく継続できる子ども達の被曝管理”をサポートしてあげる。
- 子ども達の被曝管理に必要な情報を、分かり易い形で与えてあげる。
- 心のケアをしてあげる（互助会をたちあげる）。
- お母さん達が自己管理が出来る様なサポートをしてあげる。
- 子ども達の健康管理をサポートしてあげる。
- リスク地域と連携し、サポートの輪を広げてあげる。

次のステップ

1. 日常生活の中で継続できる被曝管理のサポート
 - ご家族が時間ができたときに、いつでもホームステイできる環境を整える。
 - 安全な野菜の供給規模の拡大と、コールド・チェーンの利用法を考える。（流通チャンネルを太くする。）
2. 移住ご家族の移住先での自立を支援する。
 - お母さんの自立養成。独立心を持ってもらう。
 - お母さん同士の起業のトライアル。（リスク地域サポート事業）
3. 子ども達が定期的に被曝診断を受けるための基金を準備する。
4. リスク地域から移住できない状況にあるご家族間で、心配事が何でも話し合えるコミュニティを作る。（インターネットも活用）
5. 日々の被曝管理に必要な情報を分かり易く発信してあげる。

小諸母子ホームステイプログラム 組織

氏名	組織上の役割	実施上の役割
井上 儀一	小諸母子ホームステイプログラム代表	代表者、事務局
山田 伸	同プログラム 事務局長	副代表者、連絡責任者、カウンセラー
井出 意作	同プログラム 事務局	会計責任者
中村 正明	同プログラム 事務局	青果物宅配プログラム 責任者
井上 ラウラ	同プログラムコアメンバー	スマイルミーティング世話人(お母さんネットワーク)
鈴木 桂子	同プログラムコアメンバー	カウンセラー、アドバイザー
花岡 隆	同プログラムコアメンバー	ステアリング、行政調整
佐藤 万千子	同プログラムコアメンバー	アドバイザー
佐藤 彰	同プログラムコアメンバー	アドバイザー
高橋 輝美	同プログラムメンバー	スマイルミーティングメンバー、ホームステイサポート
加藤 奈津絵	同プログラムメンバー	スマイルミーティングメンバー、ホームステイサポート
高橋 輝美	同プログラムメンバー	スマイルミーティングメンバー、ホームステイサポート
小林 絵理子	同プログラム地域メンバー	福島チャンネル窓口担当
菊池 真理	同プログラム地域メンバー	いわきチャンネル広報担当
西澤 律代	同プログラム地域メンバー	茨城チャンネル窓口担当

子どもたちを放射能から守る
この働きを憶え、ぜひ、
小諸母子ホームステイプログラム
基金へのご支援・ご協力を
お願い致します。

事務局：山田伸牧師（小諸教会）・井上儀一・ラウラ
ブログ：http://blogs.yahoo.co.jp/boshi_home